

## 能力評価について

### 参考 1

- 「生活者としての外国人」に対する日本語教育について  
【標準的なカリキュラム案 2 ページ】

#### ▼目的

言語・文化の相互尊重を前提としながら、「生活者としての外国人」が日本語で意思疎通を図り生活できるようになること

#### ▼目標

- ・ 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- ・ 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- ・ 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- ・ 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

【標準的なカリキュラム案 9 ページ】

#### ▼今後の課題

##### Ⅲ. 今後の課題

##### (3)「生活者としての外国人」の日本語能力の評価

上記(1)(※「生活者としての外国人」に対する日本語教育の教材例の作成)及び(2)(※「生活者としての外国人」に対する日本語教育の指導方法)を踏まえ、「生活者としての外国人」に必要な日本語能力を客観的に測定するための基準及び評価方法についての検討を行う必要がある。その際、評価結果をどのように活用するかということと関連付けて検討を行う必要がある。

### 参考 2

【ガイドブック 14 ページ】

##### (5) 教室活動について検討

##### ③評価について検討

- 外国人の社会参加・エンパワメントにつながるプログラムになっているかどうかについて検討を行う。
- 評価は、生活上の行為を行うことができるようになったかどうかという学習者に対する評価だけでなく、日本語教育実施側が学習者に対して適切な日本語教育プログラムを提供できたかどうかということの評価することが重要である。
- 日本語教育プログラムに対する評価について、具体的には外国人の生活課題の解決につながる教室活動が展開できたかどうか、地域の実情に応じた教室活動の展開ができたかどうか、教室活動が地域における人間関係やネットワークの構築につながったかどうか、地域住民との間で相互理解の促進が進んだかどうかといった観点から評価を行い、具体的な日本語教育プログラムの振り返りを行う。